

平成 25 年度第 1 回熊本市中央区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

【日 時】：平成 25 年 6 月 4 日（火） 19：00～21：00

【場 所】：熊本市役所別館駐輪場 8 階会議室

【出席委員】全 17 名出席

荒木委員、今坂委員、岩崎委員、緒方委員、古賀委員、佐竹委員、杉光委員、谷口委員、徳山委員、主海委員、鳥崎委員、新田委員、水野委員、三好委員、毛利委員、山下委員、吉田委員

【議事要旨】

1. 開会
2. 委員委嘱
3. 中央区長挨拶
4. 委員紹介
5. 職員紹介
6. 正副会長選出

会長選出については、事務局一任の声あり

異議なし

事務局より会長として、熊本大学教育学部副学部長 古賀倫嗣委員を推薦

異議なし

副会長の選任について、古賀会長より事務局一任との要請

異議なし

事務局より副会長として、熊本ルネッサンス県民運動本部事務局長 杉光定則委員を推薦

異議なし

古賀委員長挨拶

熊本市は校区のまちづくりを平成 8 年度から着手していた。各校区にまちづくり研究会等を設置し、その校区の課題を洗い出し、それをどう解決するか自治会を中心に検討していた。その後、協働と参画のまちづくりを推進するために、市では機構改革が行われまちづくりが進められてきた。

これまでまちづくりは各校区と市とが協議してきたが、今回、5つの区ができて校区とそれぞれの区とで協議できるようになり、他の4つの区との競争によりどのような成果が現れるのか、また、NPO活動とのパートナーシップを通して新しい熊本市の自治の仕組み、協働の仕組み、参画の仕組みが生まれてくると思う。

日ごろ感じていることを基に忌憚のない意見を出していただき、その進行係を務めたいと思う。

7. 議事

(1) 中央区まちづくりビジョンについて

中央区まちづくりビジョン、中央区まちづくり懇話会、中央区まちづくり事業アイデア提案制度、平成25年度中央区まちづくり関連事業について、事務局より説明

質問

佐竹委員 これまで何件のまちづくりアイデア提案が出ているのか。その内容は。

事務局 これまで3件の提案が出ている。ハード整備事業が一つと、河原町をアートで活性化させる提案、ボランティア券を発行し、清掃作業等の参加者に配布する提案など。

新田委員 この提案制度を区民に対してどのように周知していくのか。

事務局 市政だよりや区のホームページ、フェイスブックに掲載している。また、校区の自治協議会等の会合において説明もしているところ。

毛利委員 25年度事業について、区民がどういうところで参加しやすいのか。もう一度詳しく説明してほしい。

事務局 25年度事業について、再度詳細に説明

新田委員 提案者は、区民以外誰でもいいとあるが、事業は区民を対象とするとあるのは。

事務局 区民を問わず提案の間口を広くした。最終的に中央区のまちづくりに大きな効果があればいいと思っている。

新田委員 他の区でも、このような提案制度があるのか。

事務局 アイデア提案制度という名称で募集しているのは中央区だけだが、他の区もエリアごとにワークショップをしながらいろんなアイデアを吸い上げる等、各区で手法は様々である。

(2) 意見交換

荒木委員 (大江校区自治協議会会長) 大江校区の各種団体の活動を紹介しようと思う。まず、校区公民館文化祭の30回目を行った。その他、校区体協主催のミニバレーボール大会や、納涼カラオケ大会を例年8月に行ったり、市民の集いや、小学校のどんどこや等も行っている。今後、他の校区の取り組み等も参考にしながら、活発に進めていきたい。

今坂委員（帯山西校区民生委員・児童委員、主任児童委員） 熊本市特に中央区の子育てサークルの取り組みは全国でもトップクラス。ただ、中央区の核となる子育て支援センターの立地の交通の便が悪い。街中（市役所や百貨店頭）に子どもを連れて行けるようなサークルの場があればいいと思う。これからは老人会等も巻き込んで様々な世代で子育てサークルができればいいし、そういう場をつくってほしい。

岩崎委員（熊本市美術文化振興財団） 現代美術、今のアートは、昔の絵画や彫刻から大きくなっている。地域の課題解決にアートをかけ合わせていきアートプロジェクトへとつなげていくことをこの5年間で提案している。この1年間は中央商店街でアートプロジェクトを行った。いろんな課題解決にアートをかけ合わせることによって、間口が広がる。

緒方委員（中央区PTA連絡会 代表幹事） 中央区PTA連絡会は政令指定都市移行と同時に発足した組織だが、とてもまとまっている。中央区に住む人はそこに住むプライドを持っている。熊本の顔、これは中央区ならではのものであり、中央区プライドをもってまちづくりに取り組むことが大事である。

佐竹委員（熊フェス実行委員長） グランド12は4年前に辛島公園を拠点として発足した。去年チャレンジ共同事業のテーマとして「熊本を漫画とアニメで紹介しよう」を企画した。交通センター前のシンボルロードを歩行者天国にしてイベントを実施したところ1万人の来場者があり成功を収めた。まちの課題解決、まちづくりにこのようなポップカルチャーを生かしていきたいと考えている。

谷口委員（地域包括支援センター「ささえりあ水前寺」センター長） 介護予防の拠点として、自治協会長や民生委員の方と一緒に活動している。特に昨年度から保健師の方と「健康まちづくり」として、高齢者を対象とした「15分続けて歩こう」など地域の方々が一緒になって健康づくりに取り組む事業に力を入れている。このような活動をまちづくりに生かしていきたいと思っている。

徳山委員（公募委員） 結婚と同時に熊本市に住み始め、第1子出産後、家にこもりがちだったが、子育てサークルの存在を知り、そのような集まりに参加するようになった。小さい子ども、未就園児を持つ保護者はどうしても行動範囲が狭く、情報が入りにくいので、そのような方々に対し、情報を得る機会を与えてほしい。

吉田委員（熊本商工会議所 地域振興課長補佐） 商工会議所地域振興課は、商店街の事業者を支援するとともに事業者の方々とまちづくりに携わっている。商工会議所は中央区に位

置しているが、市全体を管轄しているので他の地域のまちづくりの状況も把握している。また、中央区の事業者は特にまちづくりや地域の活性化に熱心な方が多いので、そのような方々の意見を聞きながら参加していきたい。

山下委員（砂取校区自治協議会） 町内でいろいろな活動を行っているが、あまり関心がない人が多い。また、校区の中に、水前寺成趣園があり、以前は多くの来場者で賑わいを見せていたが、最近では来場者が少なく以前の活気を取り戻す取り組みを進めている。その他、市の健康まちづくり事業として健康寿命を延ばそうという取り組みを実施している。

毛利委員（一新校区自治協議会会長） 五福まちづくり交流室管内に 6 つの校区があり、その代表として出席しているので、管内自治協議会長の意向をふまえた上で、今後発言していきたいと思う。現在、熊本城下のまちづくり連絡協議会や熊本 4 街道連絡協議会は中央区のエリアを超えて組織されており、中央区を中心に他の区も連携して活動していくことができる。また、障がい者自立支援を校区単位で取り組んでいるが、中央区から発信していきたい。そのほか国際ボランティア協会と一緒に自分の地域を英語で紹介する取り組みも進めしていきたい。

三好委員（共同通信記者） 前任地札幌や函館ではある取り組みが発端となって賑わいや一体感が広がり、イベントとなってまちづくりに進んでいった例もある。自分は 15 歳まで大分市で過ごしたが、愛郷心が育つ前に東京に引っ越した経緯があり、今ではそれをとて後悔している。熊本市の中央区の子ども達が大人になってもぜひ自分の故郷が素晴らしいと思えるようなまちにしてほしい。

水野委員（防災教育機関「ソナエトコ」代表） 地域の中で親と子どもが遊びの中で防災について学んでいく取り組みを進めている。（手のあげ方についてより高く上がる方法を実演によって説明。）このような取り組みの中で防災意識を高めていくことで、まちづくりに役立てていきたい。

新田委員（公募委員） 東海大学で熊本の食を活用し、地域の活性化につなげていく研究している。現在、水前寺を一つの経路として学生に観光ビジネスの実習をしようとしている。また、水前寺に最近住みだした人たちを参道に集めて交流を図るなどの隣人まつりなどといった計画をして、水前寺の活性化にもつなげていきたいと思っている。以前静岡市清水区の懇話会の公募委員も行っていたが、次は熊本市の政令市移行に伴う懇話会委員ということで参加した。

鳥崎委員（中央区校区社会福祉協議会会長 監事） 校区社協は地域福祉に取り組んでい

るが、主に子育て支援と高齢者福祉に力を入れている。公営団地対策として高齢化が進んでいる団地の集会場をもっと使いやすく整備したところ、高齢者が集まり、子どもたちが利用するうちに、だんだんつながりが芽生えてきて、自分たちで活動するようになった例がある。そのような活動の入り口のお手伝いを校区社協として行っている。

主海委員（壺川校区自治協議会会長） 壺川校区でも夏祭りや運動会、どんどやなど様々な取り組みを行っているが、うまくいかない面も多々あり、そのような状況の下で総参加型のビジョンづくりがどのようにしてできるか心配している。校区自治協トークの中でも夢のある意見はなく苦情と不満がほとんどと聞く。ビジョンの4つの基本方針が絵に描いたもちにならないよう、みんなで力を合わせて実現を目指していきたい。

杉光委員（熊本ルネッサンス県民運動本部 事務局長） ルネッサンス県民運動は、熊本城築城400年を機に発足し、熊本城の活性化をまちづくりの中に溶け込ませる目的で、みずあかりや坪井川園遊会等を実施してきた。また、肥後学講座として歴史・文化や熊本の偉人等の講座を、若い世代に伝えていくという目的で実施している。3年前に水前寺祭りを行ったが、水前寺は中央区の一つの核であり、水前寺成趣園の活性化を図ることをルネッサンスで検討している。今後、若い世代にいかに歴史や伝統・文化を伝えるかということは、まちづくりの鍵となる。

古賀会長 お一人お一人の熱い想い、メッセージをいただいた。冒頭に中央区の4つの方向性きりり品格、わくわく活力と賑わい、ほっと安全安心、いきいき健やかという説明があった。フリートークの中で多かったのは3番目の安全安心と4番目の健やかへの意見であり、まだ基盤整備的なところが非常に大きい。子ども、老人及び障がいをお持ちの方に対し、中央区としてだけでなく市全体でどのように取り組んでいくか。また、2番目のわくわく活力と賑わいとして、今日の話では中心市街地あるいは水前寺成趣園の賑わいをどう取り戻すか、集中しながら競争しどう展開していくかということになるかと思う。また、最初の方向性にあるきりり品格としての課題は2番目、3番目、4番目の事業の積み重ねによってあとから見えてくるのではないかと思える。それによって文化等21世紀の魅力づくりにつながっていくように思える。17名のご意見を簡単にまとめさせていただいた。

- (2) 事業アイデア提案については、委員の皆さんの提案もぜひお願いしたい。
第2回会議の開催日程について、日程調整の説明